

サービ斯拉ーニングで学んだ事

社会福祉学部社会福祉学科 2年 吉田実結

活動先：NPO 法人 チャレンジド

ゼミ：野尻 紀恵

私は、夏休みのサービ斯拉ーニングを美浜町奥田にある特定非営利活動法人チャレンジドで活動をさせて頂いた。サービ斯拉ーニングの活動を通して学んだ事は、学ぶ姿勢、積極的に行動することである。サービ斯拉ーニングの活動では、障害をもつ子ども達の放課後等デイサービスに参加をした。6日間の活動の中で子ども達が行う遊びを企画することとなったため、どのような企画が出来るのか、子ども達の様子を知るために夏休みに入る前に一度チャレンジドを訪れ放課後等デイサービスに来ている子ども達と関わった。子ども達と実際に会ってみると、自分が想像していたよりも子ども達の障害が重く、戸惑うことが多くあった。話しかけても反応が返って来ない、コミュニケーションがうまく取れないことにも焦りを感じ、夏休みの活動が不安になった。今まで軽度の障害をもつ子ども達と関わったことがあったため、自分は何とか活動が出来るだろうと考えていたが、自分の考えが甘かったと感じた。

夏休みの活動に入る前のゼミでは、どのような企画をするのか一緒に活動を行うメンバーと話し合いをした。しかし、企画を考え実行するということが、活動の中で一番苦労したことであった。私達がサービ斯拉ーニングを行う日には、子ども達の夏休みの後半であったため、「企画での経験が子ども達の夏休みの思い出の一つとなるように」を目標に企画を進めた。初めは思いつく企画をいくつも出し、その中からいくつかを選び企画を進めていった。企画の計画を進めていたが、準備をすることが難しかったり、子ども達には難しい動作があったりと、進めていた企画を途中で変更することもあった。チャレンジドのスタッフさんのアドバイスから「障害をもつ子どもへの配慮をどうするのかを考えなくてはいけない、車椅子の子も出来ないではなく一緒に楽しむことが出来る企画」と言われ、どうすれば子ども達が楽しく出来る企画になるのかを考えた。最終的に学生企画で行うことは簡単な工作、スイカ割りをする事となった。

企画での子ども達への配慮としては、言葉で説明をしても理解が出来ない子どもが多いため、工作では完成図を見せる。スイカ割りではスイカを割るまでの過程を写真で見せながら説明を行うという工夫をした。企画では準備不足だったこともあり、スタッフの方々にフォローをしてもらいながらなんとか成功することが出来た。スイカ割りではスイカを食べることのできない子どももいたが「スイカ割り楽しかった？」と聞くと「楽しかった！」と答えてくれたので企画を行って良かったと思うことが出来た。

夏休みのサービ斯拉ーニングを行う前に子ども達と関わったときはコミュニケーションが上手く取れなかったのが不安ばかりであったが、実際にサービ斯拉ーニングを行ってみると最初は戸惑うこともあったが、日が経つごとに子ども達に慣れ、6日間の活動を終え

たときは活動が楽しかったと思えた。活動の中で印象に残った出来事は活動5日目のプールでの水遊びをしている時のことである。子どももスタッフさんもみんなで水のかけ合いをして遊んでいたのだが、ある子どもを見ているとスタッフさんやヘルパーの学生さんには遠慮なく水をかけているのに対して、サービスマンで来ている私達には水をかけないことに気付いた。相手を選んで水をかけていると同時にまだまだ子ども達にはなじめていないのではないかと感じた。しかし、しばらく遊んでいると私にも遠慮なく水をかけてくれるようになりなじめていないのではないかという不安はなくなった。その時は全身が濡れて服を全部着替えることとなったのだが活動の中で一番楽しかったと思えた瞬間であった。水遊びの中で印象的であったのは子ども達の表情がとても豊かだったことである。それまでの活動では子どもの表情に注目することはなかったのだが、その水遊びでは子ども達の楽しそうな笑顔に気付くことが出来た。

サービスマンの活動を行って知ったことの中で、わざわざ遠方からチャレンジドに通っている子どもがいることがあった。その子は日間賀島から通っているのだが、なぜ日間賀島から奥田にあるチャレンジドまで通わなくてはいけないのかという疑問を持った。そこで、サービスマン研究課題として調査することとした。私たちは地域に障害の理解がなく近所に子どもを預ける場所がないために遠方からでもチャレンジドに預けているのではないかという仮説を立てた。調査方法として実際に遠方から通っている子どもの親御さんに話を聞こうとチャレンジドのスタッフさんを通してアポイントメントをとったが話を聞くことは出来なかった。そこで、チャレンジドを利用している子どもの親御さんを対象にアンケート調査を実施した。しかし、アンケートの質問内容では自分たちの調査したいことが分かるわけではなかった。質問の内容をもっと吟味すべきであったなど多く反省点が残った。しかし、地域の障害の理解について改めて調査を行ってみたいと思うことが出来た。地域の障害の理解を今後の課題として調べていきたい。

サービスマンの夏休みでの活動、研究を終えた。苦勞することもあったが、とても良い経験になったと考える。企画を考えることの難しさ、人と関わることの楽しさ、調査することの大変さなど様々なことを学ぶことが出来た。その中で私は「気付くこと」が大切だったのではないかと考える。子ども達の行動や表情に気付くこと、アンケート調査の内容が不十分であったと気付くことが、重要であったのではないかと感じた。さまざまな気づきをすることで学ぶことが出来たのではないかと考える。

私はサービスマンがあるからという理由で地域福祉コース、野尻ゼミを選んだわけではなく地域福祉コースを選び野尻ゼミを選んだところ、たまたまサービスマンがあり活動を行った。しかし、2年生の夏休みにサービスマンを経験することが出来て本当に良かったと思う。NPO 法人に関わることも、重度の障害をもつ子どもと関わることも初めての経験であった。この経験が自分の将来の役に立つと思う。学んだ事を3年生で始まる実習や就職にも生かしていきたいと考えている。サービスマンで学んだ事を忘れないためにも普段の生活から積極的に行動をしていきたい。